

特 集

JIS K 7391:2008 試験法と粘弾性測定装置による粘弾性特性の差異について (第4報)

粘弾性特性比較検討WG主査
エヌ・ブイ・テック 井上 茂

第4報の報告内容は、以下のとおりである。

1. まえがき
2. JIS K 7391 はり試験法と DMA による粘弾性動特性試験
 - 2.1 JIS K 7391
 - 2.2 動的粘弾性測定装置(DMA)
 - (a) 引張試験
 - (b) 捻り試験
 - (c) 引張試験と捻り試験の関係
3. 試験条件及び試験材料
 - 3.1 試験条件
 - 3.2 EVA の作製
 - 3.3 SH3400M の作製
 - 3.4 ゴム材料
 - 3.5 繊維強化材料
4. はり試験法の動特性測定試験時の注意点
 - 4.1 SH3400M, S の厚みの変化
 - 4.2 PVC の剥離の影響
 - 4.3 片持ちはり試験法でアルミニウム基材使用時の小鉄片と加振力の関係
 - 4.4 試験材料作製時の重合不足の影響
5. はり試験法及び DMA 試験法より得られた粘弾性動特性比較
 - 5.1 EVA V5274 の試験結果
 - (a) V5274 のポアソン比
 - (b) ガラス転移温度
 - (c) はり試験結果
 - (d) 引張試験結果
 - (e) 捻り試験結果
 - (f) はり試験結果と DMA 試験結果の比較
 - (g) 作製機関の違いによる V5274 動特性変化
 - 5.2 EVA EV170 の試験結果
 - (a) EV170 のポアソン比
 - (b) ガラス転移温度
 - (c) はり試験結果